

穂ら落

酔庵塾を主宰している石田秀輝先生を紹介しよう。

先生は、沖永良部の島民や風土に魅せられて、2004年に「酔庵」と名付けた別荘を、沖永良部知名町に建てた。14年3月には、東北大学教授を61歳で退職し、4月からこの沖永良部に住み着き、『地球村研究室』を開設した。

そして14年9月に酔庵塾を開設した。以来、知名町と和泊町で隔月に「酔庵塾」を開催して、今日まで沖永良部島民と一緒に島づくりについて語り合っている。

15年8月のシンポジウムでは、沖永良部島が失ってはならない「5つのちから」を明

らかにした。

心豊かな暮らし方の「かたち」を研究するために90歳の高齢者ヒアリングを実施した。2040年の地球環境の制約（エネルギー、生物多様

酔庵塾

西村 富明

(沖永良部国頭・西村書齋主宰)

性、水、気候変動、人口、食糧)の中で、心豊かに暮らし、笑顔があふれる持続可能な「島づくり」を提言している。

石田先生の研究成果である、沖永良部の生活文化を創り上げてきた「5つのちか

ら」を列挙しよう。

①自然―食も仕事もすべてが、豊かな海、豊かな山、豊かな水の恩恵であった②仕事―農業、漁業、砂糖づくり、塩づくり、運搬…子供にも暮

らしの役割があり、1人でい

くつもの仕事を持ち、仕事と生活の境界には、明確な線引きはなかった③食―山や海から恵みの食材をいただき、豚やヤギ、鶏を飼い、松葉やソテツ葉を燃料に、自給自足の

生活の中に多くの楽しみさえ

見つけた④集い―イイタバ(結い)や共同作業場を基本に、自分たちで共同して冠婚葬祭から生活場までのあらゆることやものを創り上げた⑤楽しみ・遊び・学び―大人はたしなみとして三線、唄、踊りを覚え、それが遊びであり、楽しみとなりさらには恋の醸成にもなった。つらい水くみや草刈りも、それを楽しむことを考え、ハレの日は、食や芸の披露会になった。

9月9日、島外参加者と島民で盛大なシンポジウムを開催した。地域活性化の方策として、食やエネルギー、お金などを可能な限り、島内で循環させることを提言した。